

裾野麗峰山の会山行報告書

文・石和 写真・村山

山行番 NO. 1567-2
日時 2013. 10. 19 (土)
山域 月山(1984m) 姥ヶ岳(1670m)
標高差 上り 姥沢1160m~月山頂上1984m=約824m
参加者 L村山、石和=2名
コース 姥沢駐車場7:30-姥沢小屋-牛首下分岐8:47-牛首9:10-月山頂上10:10~11:00-牛首11:35-金姥12:00~:20(昼食)-姥ヶ岳12:35-金姥12:50-装束場13:40-一の木戸跡-春木戸跡14:45-笹小屋跡(首なし地藏)14:59-大門海沼-姥沢駐車場15:40

18日夕方16時半に長泉を出発、東名・首都高速・東北・山形自動車道と走り、姥沢駐車場には夜中の1時過ぎに着く。ここにはきれいな水洗トイレと更衣室がある。仮眠をとった翌朝、広い駐車場にはカメラマンが早々やってきて、変わりゆく景観を写している。これが東北の山か！のびやかでたおやかな峰だ。

19日 7時半に出発。姥沢小屋の裏手から四ツ谷沢沿いに登っていく。カール状に開けた斜面だ。牛首下でリフトから来る道と合流。さらに先の牛首で湯殿山からの道と合流する。ここまでは雄大な景観を見ながら草原を登っていく。先週は30度を超す真夏日だったのに、見上げる先には雪がつもっている。ここからは岩が多くなる。





思ったよりも凍っている。滑らないように足を置く位置に気をつけて登る。

このぶんでは下りはアイゼンをつけたほうがよさそうだ。鍛冶月光ををすぎると傾斜が増す。やがて一面雪の台地に出る。松尾芭蕉の碑が凍った雪の飾りをつけて立っている。平坦で広い山頂台地を北へ進むと右手に9月で閉じた月山頂上小屋、トイレ、さらに小高い奥に月山神社本宮がある。農業や海上守護の神様である月読命（つきよみのみこと）が祀られている。三角点（一等）を探すと、神社の右側の登山道を行った先に設置されていた。

月山は西の湯殿山、北の羽黒山とともに出羽三山の主峰として、古くから山岳信仰の聖地として栄えてきた。由緒は古く優しい山だ。今日は晴天、青い空のもと庄内平野を一望でき日本海、鳥海山、朝日連峰と大パノラマが広がり、素晴らしい展望を満喫できる。





下りは雪がとけてきて、アイゼンをつけずにすむ。牛首の分岐で柴灯森のコースをとる。明日は天気くずれる予報なので、金姥（かなうば）の分岐で足を伸ばして姥ヶ岳（うばがたけ）への往復をする。

ここでは強風に吹かれる。この山頂からも雄大な景色を眺められ、裾野もよく見える。金姥へもどり、湯殿山神社方面へ進む。小さい池塘がみられる。むかし草鞋を替えたという装束場（しょうそくば）の分岐で玄海広場方面へ進む。川を渡るのかどうか1か所わかりにくい箇所あり。春木戸跡の分岐で左へ折れ、大門海沼の分岐で左に折れる。この辺りはブナ原生林が広がっている。いったん下った標高をここから駐車場のある姥沢へ登り返した。階段状のきつい急登が待っていた。

宿は姥沢の下の集落の志津温泉にとり、翌日は雨になったので、きのうの玄海古道の途中にある山形県立自然博物館で月山の自然の学習をしてきた。

今年はブナの実がたくさんついているそうで、殻斗の中には2つの三角錐の種が入っていて、さくさくとしたおいしいものだった。川沿いで見かけた小さい黒い生き物はノネズミだったようだ。宿の御主人はマタギしているとおっしゃっていたが、希少な存在で山深い所なんだと改めて思う。磐梯朝日国立公園内にあるこの地は高山植物が豊富だが、今は紅葉の時期で低木類の葉や草が鮮やかな彩りだった。

とにかくゆったり広い、四季折々の表情をみせてくれるという山だった。リーダーの知り合いがやっているという立派な旅館で日帰り入浴をして、長い帰路についた。

以上

